

「地域志向プロジェクト活動報告会」中部地区COC事業採択校 学生交流会

参加大学：中部大学、福井大学、岐阜大学、金沢工業大学、名古屋学院大学、日本福祉大学、滋賀県立大学、信州大学、静岡県立大学、富山県立大学、四日市大学、[特別参加]香川大学 (計12大学)

幹事大学：岐阜大学、金沢工業大学



概要と目的

◎ 中部地区を中心とした大学COC事業採択大学(12大学)による「学生交流会」を開催

岐阜大学の呼びかけにより、中部地区および近隣のCOC事業採択大学の実務者による設置形態の枠を超えた情報交換会を開催し、各大学の実施状況や事業概要について情報を共有するとともに意見交換を行ってきた(H25年度1回、H26年度1回)。こうした中部地区の大学ネットワークの共同企画として、大学という組織を超えた学生ネットワークを形成し、学生同士が互いに刺激し合い、学生の地域志向活動を活性化させることを目的として、「中部地区COC事業採択校学生交流会」を開催した。

◎ 学生交流会の概要

【開催日等】

平成27年3月5日(木) 岐阜市(JR岐阜駅前・じゅうろくプラザ)

【参加状況】

12大学の学生・教職員を含めた117人 (学生47人、教職員55人、一般(他大学、自治体、企業等)15人)

【準備から運営まで】

・岐阜大学の学生がスタッフとして、会場の準備から受付、参加者の誘導、撤去作業などに携わった。
・全体の司会進行は岐阜大学・応用生物科学部(2年生)の若林夕莉さんが担当した。

【プログラム構成】

各大学の学生によるプレゼンテーションと質疑応答、同会場内で各大学の学生の展示によるポスターセッションを実施

【プレゼンテーションの評価】

各大学の教職員1名が評価員となり、各プレゼンテーションに対して順位付けをするのではなく、「独創性」、「モデル性」、「地域性」、「調査・研究力」、「グループ力」の5つの観点から、特に際立った点を評価し、プレゼンテーション毎に評価された観点を講評(複数の観点が評価されたものもあれば、1つの観点到評価が集中するものもあった)

活動の様子

◎ 参加大学によるプレゼンテーション(一部)

◆ 金沢工業大学・・・空間デザイン研究:アクティビティを創発させる可変型空間装置と感性情報の共働

(発表者:上原綾太(環境・建築学部3年)、浦口昂久(同4年)、高野翔(情報プロテック学部4年)、高戸奈央子(同))

【概要】

照明や映像・音響を有する空間造形と視覚メディアによる感性情報を共働させ、金沢中心部の魅力や新たな都市アクティビティを創出する多分野融合のプロジェクトについて報告があった。

【参加者からのコメント】

大学・学部の特徴を生かしたまちづくりであると思う。学生コンセプトも素敵だと感じました。



◆ 岐阜大学・・・地域振興プロジェクト～飛騨牛の将来について～

(発表者:上田裕紀(応用生物科学部1年)、加藤聖弥(同))

【概要】

平成26年度の後期に新設された講義「地域ブランドと地域振興Ⅰ」として、地域ブランド「飛騨牛」に関する講義・試食・施設見学等を通じて、「飛騨牛」が若い世代により親しまれるようになるにはどうしたらよいかのアイデアを活動の成果として報告した。

【参加者からのコメント】

ブランド化や売ることだけでなく教育まで巻き込もうとする点が評価できる。今後に期待します。



◆ 滋賀県立大学・・・近江楽座プロジェクト「かみおかへ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-」の活動紹介等

(発表者:村尾友香(人間文化学部3年))

【概要】

滋賀県彦根市上岡部町に佇む築135年以上の古民家にて、学生の手で建物を改修しながら、古民家勉強会・食卓イベントの企画開催などを行い、新たな空き民家活用の可能性を模索しながら活動しているプロジェクトについて報告した。

【参加者のコメント】

10年の歴史ある活動と学生ならではの視点により地域の文化活動と魅力を発信している。「楽しい」ということは大事ですね。



◆ 日本福祉大学・・・地域を知り、人々をつなぐ。その先へ～知多半島で学んだ知を、過疎の地のまちに活かす～

(発表者:村上康介(社会福祉学部3年)、渡邊美咲(同2年)、森下直輝(同2年))

【概要】

経済学部・社会福祉学部の共通プログラムの地域研究プロジェクト「VC(ボランティア・コミュニティ)プロジェクト」での、自立的に行動できる人材育成をテーマに、大学が位置する知多半島を拠点とした学びにおける、いわゆる限界集落の長野県上伊那郡辰野町川島地区の定住・移住対策に活かした取り組みと、その成果と今後の展開を報告した。

【参加者のコメント】

発表学生がこれから一年間休学し、地域おこし協力隊に挑戦することに驚かされました。活躍を期待しています。



◆ 富山県立大学・・・学生団体COCOS ファミレスとの戦い～地域を包み焼いて～

(発表者:高松将也(工学部3年))

【概要】

大学COC事業の補助期間終了後の継続を見据えた地域と大学を結ぶハブとなる学生団体「地域協働研究会COCOS」における、大学の地域志向科目の授業支援活動やまちおこし等への企画段階からの活動報告があった。

【参加者のコメント】

サークルではない位置付けの学生団体による事業の継続を視野に入れ、他大学のモデルにもなり得るのでは。プレゼンのセンスも素晴らしかった。



◎ 参加者・学生からの声 (アンケートやインタビューより抜粋)

・交流会で他大学の活動を知ることには自分たちの活動への大きな刺激になりました。貴重な経験の機会を与えて頂きありがとうございました。

・どの学生も自分たちの活動に自信と魅力を感じていたように思える。学生の主体性が素晴らしい。教員が機会をつくる(教育の場をつくる)ことが重要である。

・今後も引き続きこの会を開催していただきたい。主役は学生で、とても良い交流会だと思います。

